5．　山陰　古代鉄の王国　- 伯耆の国 -

『鉄の伝来をもたらした古代　山陰 鉄の王国の出現』

-日本誕生に役割を演じた古代山陰の iron road -

sanin.htm by M.Nakanishi 2000,April

5.1. 『鉄の伝来をもたらした古代　山陰鉄の王国の出現』
-日本誕生に役割を演じた古代山陰の iron road -
5.2. 『古代　鉄の集散地　妻木晩田弥生遺跡』-鳥取県淀江町・大山-
5.3. 『溝口の鬼伝説』と伯耆の国の製鉄地帯

山陰　鉄の王国 - 伯耆の国-　lron Road

5.1.『鉄の伝来をもたらした古代　山陰鉄の王国の出現 』

-日本誕生に役割を演じた古代山陰の iron　road -

1.　出雲青銅器文化の終焉と鉄の王国の出現

365 本の銅剣　16 本の銅矛　6 個の 銅鐸が
各々まとめて埋められていた
出雲荒神谷遺跡

まとめて出土した
銅剣 365 本

出土した 16 本の銅矛
と 6 個の銅鐸

弥生後期一世紀ごろ、出雲には銅剣・銅鐸に代表される青銅文化圏が花開く巨大な山陰・出雲王国があった。 そして、出雲荒神谷で、大量にまとめてうずめられた銅剣が発見されたのを最後に銅剣をもった青銅器の文化権が出雲から忽然として消えた。

その後、この地方には韓国に多くの例がある突出角を有する大きな方墳が出現する。
またこの四隅突出方墳墓には多くの鉄製品が副葬されている。
この文化の交代が起こる同時代の遺跡からは　大量の石のつぶて・鏃や石剣などの武器が発見されており、この地域で弥生後期一世紀頃　大きな戦いがあったと考えられる。
これら　出雲の青銅器文化や鉄の伝来を告げる四隅突出方墳墓に代表される山陰・出雲王国の形成には日本海を大陸から渡ってきた渡来人が深く関わっていたことは疑う余地がない。
出雲神話に見られる『やまたの大蛇』伝説もこれら渡来人を含めた新住民と先住民の争いの構図が読み取れる。
特に一世紀後半頃から　3 世紀にかけて、強力な鉄製の武器・農耕具を持った渡来人が大陸・朝鮮半島から日本海沿岸の各地に次々に現れ、先住の民と融合しながら、山陰から北陸地方(当時越の国)にかけての日本海沿岸に鉄と稲作など農耕を持つ強力な王国を作った。

2．奥出雲　ヤマタの大蛇伝説と船通山　出雲鉄の王国の出現

出雲仲仙寺古墳　四隅突出墳丘墓

3．　伯耆の国　鉄の王国　　妻木晩田弥生遺跡・淀江・溝口

伯耆の国　優美な姿をみせる大山を背景に島根半島･弓ヶ浜を望む日本海沿岸淀江の地にも王国が出現した。
日本海を望む小高い丘に大陸との密接な関 係を示す多数の四隅突出墳墓群ならびに多数
の鉄製品が発見される妻木晩田遺跡とそれに続く古墳遺跡群である。
時代がくだり日本が誕生した白鳳時代には淀江廃寺遺跡が発見されている。

まさに　畿内・大和に次ぐ、強大な文化圏があったことがわかる。　鉄の日本伝来と深くかかわった伯耆の王国である。
また、伯耆の国の『たたら製鉄』の源流となり、遠く背後にそびえる船通山(鳥上山　ヤマトタケルの伝説の地)から流れ出た日野川が大山の山麓を縫って流れ下り、この淀江の地で日本海に注いでいる。伯耆の国の母なる川にふさわしい大河である。
この日野川沿い　大山の西山麓　伯耆溝口は古代の一大製鉄基地であったことがわかってきた。
この伯耆溝口には、古代たたら製鉄　製鉄技術を持った渡来人と大きな関わりを持つ「鬼伝説」が伝えられており、同時に鉄滓が出土する古代製鉄群が発見されている。
渡来人と強い関わりのある四隅突出方墳墓群・大量の鉄製品の出土そして一大製鉄基地の存在を示す製鉄遺跡群。これらは古代早くから伯耆の国に製鉄の技術が伝来し、それを基礎にした「鉄の一大王国」があったことを示している。 娘が嫁いで　米子に住んだのを機会に幾度となく、この淀江の地を訪ね、鉄を日本にもたらした渡来人　古代伯耆の王国に思いを馳せた。

2000.3.25. by M.Nakanishi

参　考　　鉄器登場　朝日新聞　夕刊

日本の原像

第9部 鉄器登場 ③

日本海沿岸に続く「道」

ねばり強い遺跡が実って保存が徐々ったお弥生時代の大規模墓遺跡、鳥取県大山、郡伯耆町の妻木晩田遺跡は近く、弥生の重要遺跡として国の史跡に指定される運びだ。将来の詳しい調査や整備に備え、遺構の土砂崩れなどを防ぐ補強工作等もち月十七日に始まった。

この地に花開いた弥生社会は、朝鮮半島など海外から最新鋭の鉄の道具類を大量に手に入れることができる窓口と交渉の力を持っていた」。愛媛大学の村上恭通助教授は、鉄器の解析を通じてその実像をとらえつつある。

日本海を見下ろす妻木晩田遺跡では一九九二年から去年まで、約四六十ヘクタールの丘陵などに分布する遺構が発掘調査された。その結果、八百棟以上にのぼる建物跡をはじめ、ヒトがのろ状鉄滓などの遺物が出土。墓地遺構の遺構などが見つかった。金属器にみても貝殖の遺跡である。

住居跡などから出土した鉄器は計四七十点。木の柄を取り付ける部分を補強した珍しい斧の刃のほか、鏃先、小刀、木工用のヤリガンナなどだ。形状からみて、北部九州や地元でつくられたものが大半を占める。遺跡には、鉄器生産のための炉の跡も残っていた。しかし、日本海を隔てた高度な技術の遺品もあったようだ、という。

東木晩田遺跡より少し前、南西に約十キロの倉吉、伯耆町で栄えていた妻木山遺跡群からは、二百棟以上の弥生住居跡とともに斧や鏃などを十点近くの鉄器が発見されている。このほか、東方約四十キロの東郷町・湖内遺跡からは弥生では全国最長級の鉄刀（九十五センチ）と鉄剣（七十一センチ）、いま調査されている東郷町東郷の青谷町・青谷上寺遺跡からは、すでに四百点以上のほぼ揃った弥生鉄器が出ている。

青谷上寺遺跡の鉄器は長さ二十一センチの鉄斧やヤリガンナ、タガネなど。鍛造、鋳造技術による製品が混在している。粘土質の土壌に包まれた状態で保存されていたためもあるが、動植物遺存の占い用具で知られる貴重な遺構に加え、学界から重要視されている。

このように弥生、鳥取県の弥生遺跡からは鉄器が「続出」している状況だが、鳥取の西、島根県でも安来市・柳遺跡から斧の遺構とともに鏃などの鉄器が出土するなどの発見が相次いでいる。東部府内では、コバルトブルーの鮮やかなガラス製勾玉とともに金属器の十四点の鉄剣で有名になった出雲市・大風呂南遺跡をはじめ、弥栄町・宮内遺跡、峰山町・鳥谷、浦ヶ崎遺跡などがあたらしい弥生の鉄器、剣の跡などが丹後半島を中心に発見している。

さらに新やヤリガンナなど四十点が出土している出雲市の砂丘遺跡群をはじめ、荒井市の林・藤島遺跡、斐川町別所の西岡・次郎遺跡、宍山市の除市・佐伯遺跡、新宮町上岡市・東山遺跡など、数今の弥生鉄器の発見は枚挙にいとまがない。「遺跡と輝く弥生の日本海沿岸の鉄の発見例は近畿地方にもなく、全国的」といわれるほどだ。豊富な鉄剣、剣鞘などと刻次いだ出雲地方の貴重遺物の発見は、続出が出てきた。

これら弥生の鉄器は、少なくとも鉄素材自体は朝鮮半島や中国でつくられたもので、かなりの輸入品とされている。鉄器品などを手に入れるには、その「見返り」がいる。妻木晩田からの交易品はまだ分かっていない。

しかし「たとえば出雲や宍山、新宮の玉製品、ヒスイ製品、丹後半島の水晶製品などのように、土器でも出土された工芸品が想定できる。もちろん、軍事力や政治力のほか優れた鉄器技術も持っていたのでは」と村上さんはみる。

日本海沿岸に沿って延く「鉄の道」。しっかりとした「日本海文化圏」の骨組みが浮き彫りになってきた。

（編集委員・芝野　幸弘）

倭れた交易力や交渉力を裏付けるという妻木晩田遺跡出土の鉄器類＝愛媛大・村上恭通助教授

山陰　古代鉄の王国　- 伯耆の国 –

5.2.　「古代　鉄の集散地　妻木晩田弥生遺跡」

-鳥取県淀江町・大山町-

mkbnda1print.htm by M.Nakanishi　April,2000

妻木晩田遺跡は鳥取県大山町と淀江町にまたがる丘陵にある弥生時代後期(いまから2000年～1700年ほど）を中心とする大集落遺跡群です。
16ヘクタールの調査区で、800軒をこえる建物からなる大規模な村と、山陰地方独特の四隅突出墓　21基もみつかりました。

四隅突出墳丘墓

遺跡から弓ヶ浜

遺跡から日本海

この地域は、大山の北なだらかな斜面の先端部、日本海に面する淀江町の東の丘陵地帯にあり前面には古代に淀江の潟湖があった淀江平野、さらにその向こうには広大な日本海が広がる大陸との交通の盛んであったところで、周囲の山には古墳が多く築かれ、またその東部には壁画の断片が出土した淀江廃寺・真名井の泉と呼ばれる白鳳時代から絶えることのない大山の湧水がある白鳳の里があり、古代から開けた王城の地の一つです。

妻 木 晩 田 遺 跡　鳥取県淀江町・大山町

妻木晩田遺跡は洞ノ原遺跡、妻木山遺跡、妻木新山遺跡、仙谷墳墓群、松尾頭遺跡、松尾城遺跡、小真石清水遺跡という７つの遺跡の総称で、遺跡の範囲は調査された部分だけで約 16 ヘクタール、吉野ヶ

里遺跡のほぼ４倍の広大な遺跡です。
それぞれの遺跡は住居が密集する地域、倉庫の密集する地域、広場、祭殿や有力者の館のある特別な地域があります。 判明しているだけで、竪穴住居３５８軒、掘立柱建物３５５棟があり、また四隅突出墳２０基も見つかっています。

妻木晩田遺跡と　吉野ヶ里・池上遺跡の比較

これらの遺跡は丘陵一帯に分布し、それらがひとつずつ別個の役割を持っていたと見られ、それがひとつの王国ともいうべき集合体を形成している点で、従来の弥生遺跡観の見直しを迫る重要な遺跡です。
いままで発掘された弥生の集落は、吉野ヶ里遺跡など従来の弥生遺跡では、環壕の外側つまり、集落のそとに重要な倉庫群が発見され、不思議に思われていましたが、この妻木晩田遺跡のあり方から見て、弥生の集落はもっともっと広大に広がっていた可能性が出てきました。
吉野ヶ里遺跡をはじめ池上曽根遺跡にしても、今想像されているより広大な規模の集落であった可能性があります。
妻木晩田遺跡は、弥生時代における日本海沿岸部の様相を知りうる遺跡であると同時に、わが国における弥生の集落観の見直しという問題を提起した重要な遺跡です。
またこの遺跡は今日まで一切破壊を免れてきて、約二千年前の弥生の原風景をすべて見ることのできる希有の遺跡でもあります。

妻木晩田遺跡　インターネット　ホームページより

この遺跡の居住域からは、200 点を超える鉄器が工具・農機具を中心に発掘され、日本海側では群を抜く多さです。
また　鋳造品も含まれ、直接・間接的に大陸から持ち込まれたものも多いと想像されており、この地域が鉄の集散地として　大陸や日本各地と強い交渉力を持つ一大拠点であったことがうかがえます。
「鉄と四隅突出墳丘墓」に代表される大陸からの渡来人と既に日本にいた人達が出合い、融合して王国を築いて行った「鉄伝来の道　Iron Road 」が見て取れる重要な遺跡でもあります。

(「発掘された日本列島'99」より　千葉県松戸博物館　2000.1.21.)

古代山陰の製鉄遺跡群

妻木晩田遺跡出土鉄器製品

私がはじめて妻木晩田遺跡のある丘陵に登ったのは　2000 年 1 月の冬の午後。あたり一面銀世界。妻木晩田遺跡も遠望する淀江平野も白銀の中にすべて埋もれていました。
周囲の森の中に囲まれて細い白い道で点々とつながる真っ白な丘と雪から頭を出している切株とが妻木晩田遺跡であること示していました。
丘から丘へ本当に広大な村が有った事が実感されます。
環濠や一つの丘の上に独立してある小さな村との弥生集落からはほど遠い広大な集落群である。
高い丘の上に立つと眼下の雪の平原の向こうに島根半島の山々と真っ青な日本海が広がり、大陸へとつながる道が見て取れました。季節は違いますが、丁度青森「山内丸山遺跡」もこんな風でした。

森に囲まれ、大山の姿は見えませんが、大山に向かって南へこの丘を抜けて行くと大山の山裾の谷間には点々と続く古代伯耆の国の大製鉄地帯「伯耆溝口」。
古代鉄の渡来人もこの森の中を抜け、大山の山麓へ散っていったに違いない。また　大山山麓の各地で精錬された鉄がこの地に運び込まれ、日本各地に運ばれて行ったであろう。
はるか西の大陸・幾多の弥生人が日本海を向いて整然と眠る土井が浜　・出雲・奥出雲の国東をみると丹後・越の国　そして　この弥生よりももっと古い縄文の王国「津軽　山内丸山遺跡」南には　大山の山合を縫って　吉備の国　そして畿内へと…・・。
根拠はないが　鉄と共に古代人が歩いたと想像すると楽しくなる。
真っ青の空の下　誰もいない白銀の遺跡で一人足跡をつけ、楽しんで帰りました。

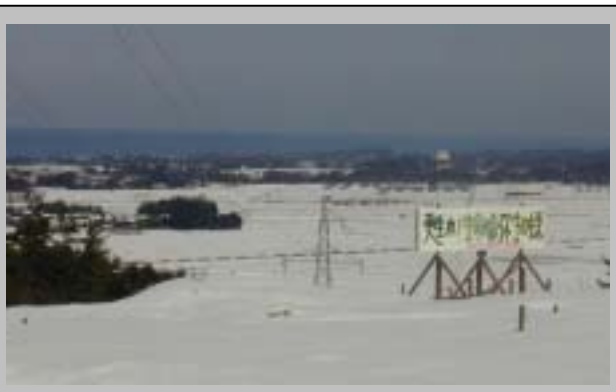
冬の妻木晩田遺跡　2000.1.29.

mkbnda2print.htm by M.Nakanishi

米子から　雄大な雪の大山を眺めながら、higy way を東へ約 10 分 日野川を渡ると雪原がひろがる淀江平野。 大山・溝口・津山へ曲がる米子道をやり過ごすと雪原の向こう大山の山裾に帯のように黒くつながっている丘陵とその前に大きな櫓が見えてくる。 白鳳の里と古代の古墳群のある丘陵地帯である。
この丘陵のひとつが妻木晩田遺跡であり、その西には淀江廃寺のあった丘が連なっている。
この丘陵へばりつくように、古代から栄えた妻木・淀江・真名井の里がつながっている。

淀江のインターで下り、南へこの丘陵に向かって突き進む。淀江高校の横の山合の道を丘の中に突き進むと妻木晩田古墳の丘陵である。 ほどなく妻木晩田遺跡への上り口を上がると森に囲まれて幾つもの平坦な丘が雪にうもれている。丘を取り囲む樹木の緑と雪原　静かな「妻木晩田遺跡」である。

小高い山之上に「弥生の森」の看板が見える。誰もいない雪原の雪の上に足跡をつけながら遺跡の中心部に入っていった。小高い丘へ登って行くとそこからは淀江平野の向こうに日本海が広がっていた。
『日本誕生』の前夜　鉄とともに大陸からやってきた渡来人がつくったと想像する弥生の大集落。鉄の集散の一大拠点として、多くの人がこの丘にやって来たに違いない。
『山陰・伯耆の古代鉄の王国・妻木晩田遺跡』は雄大な伯耆富士を背に日本海と弓ヶ浜をみおろす小高い弥生の森の雪にひっそりとうずもれていました。



雪に埋まる妻木晩田遺跡

山陰 古代鉄の王国　- 伯耆の国 -

5.3.　溝口 鬼伝説と伯耆の国の製鉄地帯

-日本最古の鬼伝説から-

2000.3.10.

孝霊天皇 鬼伝説 伯耆　溝口

mzgciprint.htm by M.Nakanishi

大山山麓の「伯耆　溝口」は古代伯耆の国の一大製鉄地帯。
中国山地の山奥から流れ出て大山の山麓を縫い日本海へ流れ出る日野川。この日野川が大山の山裾から平野部に出る山合が伯耆溝口。この日野川沿いの山中は砂鉄の宝庫。
この溝口の地では古代から、この川や山中の砂鉄と山中の樹木を焼いて作った木炭を使って、製鉄が広く行われてきた。
この山間の溝口を抜けるとそこは大山をバックに日本海まで、淀江・妻木の平野・丘陵が大きく広がっている。　この淀江の地は古代より、大陸から多くの渡来人がやって来て栄えた王城の地。
大山の山裾の丘陵地帯の前に広がるこの平野部は　古代広々とした湖が日本海に通じていたという。
この大山山麓の丘陵地帯に古代からの数々の遺跡・古墳が眠っている。かつては大陸から数多くの人達が淀江の湖を通ってここに新天地を求めてやって来た。
稲作・鉄の技術も大陸の多くの文化とともにこれらの人たちと一緒にやって来た。

妻木晩田弥生遺跡そしてその後の白鳳時代に続く数々の古墳群・淀江廃寺遺跡みんなこの丘陵の上にある。
白鳳の郷と呼ばれる古墳群のひろがる丘陵の上に立ったのは　梅雨の６月の朝。
眼前には緑一色の田畑がひろがり、その向こうには真っ青の日本海・島根半島の山々が霧雨に煙っていた。丘の下の里には　きれいな涌き水が音を立てて流れ、水車がまわる水の里。
王城の地は今は本当に静かな日本の原風景。

孝霊天皇 鬼伝説 伯耆　溝口　-楽楽福神社　古文書より-

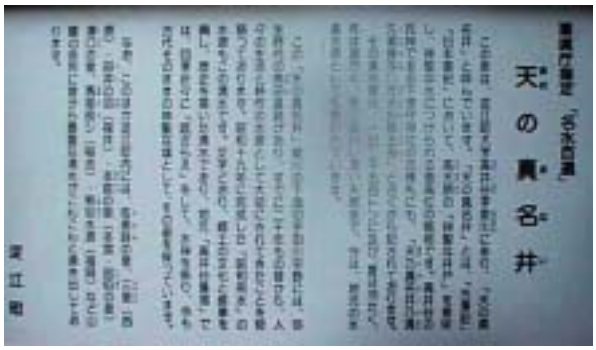
伯耆の国日野郡溝口村の鬼住山に悪い鬼 が沢山住み着いていました。
この鬼達は近くの村々に出ては人をさらったり、金や宝物・食べ物を奪って人々を苦しめていました。
これを聞かれた孝霊天皇は、みずから軍勢を率 いて鬼住山の南のこれより少し高い笹苞山(さすとさん)に登り、鬼住山の鬼達をことごとく退治され ました。
天皇が山に登り、布陣された時、人々は笹巻の団子を献上し、士気が大いに上がったといいます。
それで、この山を笹苞山(さすとさん)と呼ぶようになりました。
鬼をおびき出す為、山麓の赤坂というところに団子を三つ並べたところ、弟の鬼『乙牛蟹』が出てきて討たれました。
兄の『大牛蟹』は大いに怒り、手下を束ね一層暴れ、容易に退治することが出来ません。
ある晩　眠っている天皇に「笹の葉を刈って山のように積上げなさい。そうすると風が吹いてそれらを舞い上げ、鬼を遅い退治出来るでしょう」とのお告げがあった。これを聞いた天皇がその通りにすると三日目の朝、猛烈な南風が吹き、積上げた笹を「あれよあれよ」と鬼の住処の方へ、巻き上げて行きました。天皇はここぞとばかり、全軍を叱咤して、舞いあがった笹の後を追い、鬼退治に向かいました。
笹の葉に巻きつかれ、また枯葉が燃え、鬼達はなすすべも無く、麓に逃げて降参 しました。
人々は大変喜んで　麓宮原の地に笹で社殿を吹き天皇を祭りました。
これが楽楽福(ささふく)神社のいわれです。

淀 江 平 野 と 白 鳳 の 郷

鬼伝説はこの製鉄技術と関わった渡来人と深く関わっている事が日本各地の多くの事例で良く知られている。 この溝口の『鬼伝説』も同様に古代製鉄　製鉄技術をもたらした渡来人と深く関わっている。
古代の伯耆国の大製鉄地帯「日野川・溝口」につながる淀江の地は古代日本の大陸への前線基地。
そこには大陸との密接な交流から生まれた縄文・弥生の妻木晩田遺跡・白鳳の淀江廃寺と続く独自王国勢力と大和朝廷の勢力との何らかの交渉があったに違いなく、この『鬼伝説』がそれを伝えているのかも知れない。
淀江の湖を通ってやって来た渡来人が日野川の砂鉄と出会い自分達の持っている製鉄技法を発展させ

て行った。鉄と炭を求めて　大山の山中に入っていったに違いない。
楽楽福(ささふく)の「ささ」は「砂鉄」を「福」は「吹く」と関係があるといわれ、「たたら」製鉄との関係つまり、鉄の技術を持ってやって来た渡来人と先に定住した農耕の民との争いの様相が色濃く見えます。しかし、稲作のも鉄の鍬なくしては発展しなかったであろう。このような産鉄の民が日本の到る所で「鬼」としてえがかれている。
時の権力者は鉄を得て、さらに巨大になって行ったに違いないのにそれを支えた産鉄の民が「鬼」とはいかにも理不尽に思う。
もっとも、やはり古代津軽の製鉄地帯であった岩木山山麓の村には、鬼が村の開墾の水路を一夜にして作ってくれたとして　節分には「福は内鬼は内」と祝う村もある。
また　伝説の大男　映画「もののけ姫」に登場した「ダイダラボッチ」も「たたら製鉄」と関連づける説もあり、この時には「ダイダラボッチ」は村人を助けるユーモラスな大男と描かれることが多い。

淀江廃寺　＆ 真名井の泉



また、この溝口の鬼伝説には異説があって、この鬼退治を姫を母とする孝霊天皇の皇子『鶯王』であるとも言われている。 この妻木の地が大陸からやって来た鉄の渡来人と深く関係づけられる妻木晩田弥生集落遺跡の地であることを考え合わせると、この鬼退治伝説の主人公　孝霊天皇やその皇子『鶯王』が大陸からの渡来系の人達であるとの説も一層真実味を帯びてくる。
妻木晩田遺跡や古代の古墳が広がる白鳳の郷の丘に立って、日野川沿いに広がる淀江平野から日本海を眺めると日本古代の想像がどこまでも広がって行く。

鉄の産出地帯「溝口」の古代鬼伝説が、古代この地で栄えた「伯耆　鉄の王国」を支え、日本誕生に大きな影響を与えた事を伝えている。

山陰　古代鉄の王国 -　伯耆の国　-
『鉄の伝来をもたらした古代　山陰 鉄の王国の出現』

〔完〕